

安心のものものさし

福島第一原子力発電所事故や浜岡原子力発電所のさまざまな情報が、テレビや新聞を通じて報道されている。市民からは本当に私たちの暮らしは大丈夫なのかという不安の声も聞かれる。こうした状況下では、積極的に情報開示することが住民の不安を払拭する。発電所のスポークスマンである西田勘二広報部長に質問した。



―想定東海地震は、3つの地震が連動して発生するかもしれないともいわれています。

3連動で地震が発生しても発電所は大丈夫ですか。大規模な余震が繰り返し発生しても安全なのですか。

西田 この地域では、100年〜150年程度の間隔でマグニチュード(M)8・0クラスのプレート間地震が発生しており、地震の発生状況がよく知られています。発電所では、想定東海地震ⅡM8・0はもとより、3連動とされる1707年の宝永地震ⅡM8・6も考慮し、当地域で最も被害が大きかった2連動地震の1854年安政東海地震

ⅡM8・4に余裕を持たせた

M8・5の地震の揺れを用いて設計・建設し、安全性を確保しています。余震など繰り返し発生する地震にも、設計時点で、揺れの大きさや継続時間を長くするなどして安全性を確認しています。原子炉圧力容器や主蒸気配管などの重要な機器は、実物や詳細に模擬した設備を、大型高性能振動台という実験装置で実際に揺らして試験し、繰り返し揺れに対してもしっかりと健全性を確認しています。

―東北地方太平洋沖地震のよ
うに、M9・0クラスの地震
が発生しても施設の安全は保

たれるのでしょうか。

西田 マグニチュードとは、震源域から放出されたエネルギーの合計のことですから、一概にマグニチュードの大小で発電所への影響を評価することはできません。発電所では、安政東海地震ⅡM8・4に余裕を持たせたM8・5の地震の揺れで安全性を確保しています。また、想定東海地震の震源域にある発電所であることを考慮し、地域の皆さまにより安心していただけるよう、これまで設計で用いていた地震の揺れに対し、約3割増の大きな揺れでも安全性が確保できるような工事をしました。

―発電所が運転を停止しても核燃料は原子炉の中に残っています。それでも本当に安全なのでしょうか。福島第一原子力発電所のような事故が起

こることはないのですか。

西田 停止中であっても、燃料プールや原子炉内で燃料を保管していることに変わりありません。燃料プールや原子炉は、揺れに対して十分な安全性が確保された原子炉建屋に設置されています。燃料プールには貫通口がなく、ステンレスの板が内張りされたコンクリート壁で構成されているため、万一の場合にも水が抜けない設計になっています。

福島第一原子力発電所が原

PROFILE

西田勘二 Kanji nishida

中部電力㈱浜岡地域事務所
総括・広報グループ専門部長

1978年に入社。運転業務に従事し、発電指令課長、発電運営課長などを経て2008年7月から現職。主に報道機関への情報発信や取材対応などを行っている。